

・ 晩秋と初冬がいりまじる 福島県 奥会津【1】・

hetsuri00.htm by M. Nakanishi



へつり（瀨）って知っていましたが
こんな漢字があるとは知りませんでした

11月16日 福島県塩原溪谷から奥会津 岩館村から下郷へ

家内と二人 車で 晩秋の紅葉と初冬の雪の混じる奥会津の山裾を気ままに楽しみました。

尾瀬を訪ねる毎に通る尾瀬の福島側奥会津。福島県的那須と尾瀬の峰々にはさまれた奥会津は周りを雪深い山々に囲まれ、一昔前までは交通の便が悪く、しばしば秘境と呼ばれた地域である。

江戸から会津に出る最短コースとして街道が通り、賑わいをみせた所でもあり、岩手県の遠野と同様に奥会津の会津田島や館岩・桧枝岐・下郷などの村々には数多くの民俗芸能や伝承が残っています。



奥会津 下郷 名勝 「塔のへつり」



紅葉の塩原溪谷・塩原温泉



山は雪 林は紅葉 水引集落で



前沢集落の曲家



木賊温泉

晩秋と初冬がいりまじる曲家集落が残る 奥会津 館岩村 2002.11.16.

今では 日光から山間部の鬼怒川・藤原町から奥会津に抜ける五十里越えの道も幹線として整備され、平行して東武電車が走り、浅草から日光・鬼怒川を経てトンネルを抜けると3時間たらずで奥会津。また、東北自動車道で西那須野 IC から塩原温泉を経て山間を抜ければ、これも難なく奥会津に至る。

尾瀬への入口としてばかりでなく 東京から手軽に行ける観光地 スキーのメッカとして多くの人が訪れるようになり、もう秘境の地の面影はない。

そんな奥会津の谷間から流れ出る阿賀野川。 阿賀野川の源流が尾瀬や那須の山々から流れ出てこの奥会津で一本の川となり、谷間を流れ下り、美しい渓谷美を作っている。それが 名勝「塔のへつり」



へつり（巖）って知っていますが
こんな漢字があるとは知りませんでした

会津田島から会津若松へ会津線に乗ると下郷から湯野上温泉にでる途中で この「塔のへつり」の渓谷を渡るのですが、鉄橋に差し掛かると車は速度をゆるめ、車掌が「塔のへつり」の説明をアナウンスする。尾瀬からの帰りに昔何度か汽車の中から見た「塔のへつり」奥会津の名勝。今回は車で奥会津に行きましたので、その渓谷の谷にまで下り、塔のへつりの真っ只中に立つ事が出来ました。

会津田島を出て、山間を会津若松に向けて走る車は程無く阿賀野川の切立った

美しい渓谷沿いを走り、深い渓谷をはさんだ家並みが見え出すとひなびた山間の温泉湯野上温泉。この湯野上温泉の街を抜け、山間を深い渓谷が続くところが「塔のへつり」。紅葉した林が美しい。



紅葉した落葉が敷き詰められた深い林の中「塔のへつり」駅から

川の方へ歩くと突然切立った崖「塔のへつり」が広がる

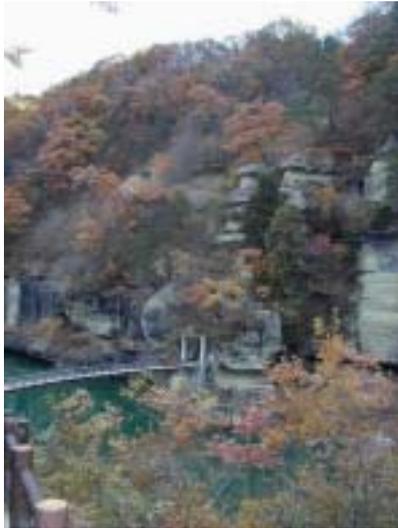


河岸まで続く紅葉した深い林の中に「塔のへつり」駅がある。あたり一面紅葉した落ち葉の絨毯の上を踏みしめて河岸へ。

冬まじかの夕暮れ時、突然 切立った崖の上に出る。対岸も切立った断崖で 高さ数十メートルの岩肌を見せた崖が幾本も林立する幅の狭いI字の渓谷を川が流れ下る。深い川の緑と紅葉した木々 そして川の両側でまるで石灯笼のように林立した幾本もの崖が素晴らしい景観を呈し「塔のへつり」と呼ばれている。

凝灰岩のこの岩場地帯をかつては数十メートル上を川が流れくんだり、何万年もかかって、岩を削り、幾筋もの並行し

た筋を岩に刻みつつ、この渓谷作り、この「塔のへつり」の景観を作った。
夕闇の中 素晴らしい紅葉と川の緑に見とれていました。



名勝「塔のへつり」渓谷の上から

2002.11.16. 夕

渓谷の奥に通ると汽車が止まりアナウスがある鉄橋が見える(右端の写真)

「塔のへつり」とはなにか・・・「へつり」 「へつり」を漢字で書くと「崖」

「塔のへつり」の案内板に「崖(へつり)」と書いてありました

読めないですね。 もう 死語だと思うのですが・・・また、方言のような印象を持っていました。ましてや漢字があるなど思いも寄らぬ事

でも 山へ行く仲間や 川筋を歩く人 「へつり」は聞いた事のある言葉

「川筋を歩いて その崖を へつって・・・」などと言うのは知っていましたが・・・

また、「信州や会津」の方言と言う人もいて、信州人はよく使うという。

僕のイメージでは 「はぐとか こそぎ取る」といった意味で使っていた方言「へつる」と同意とと思っていましたが、漢字があるとなるとどうも違うらしい。

僕の使う「へつる」とは 剥ぎ取ること 「ご飯を ちよつと へつって・・・」

「ちよつと それ へつって・・・」等と私自身 ごく普通に使ってきたのですが・・・・・・・・



塔のへつり 崖の基部 崖にそった遊歩道

「崖」 などと書かれると全く判らず

得体の知れない漢字としか思えず。

「へつり」とは「川に迫った崖の縁などを水平に移動すること」を言うと本には書かれています。
山屋やつり仲間が使う言葉もほぼこれ。

崖の縁から川底に降り、川に沿って そびえる崖の岩壁にあるほんの狭い幅の岩棚を歩いてきました。
何万年もかけて 凝灰岩の岩壁が流れ下る激流によって削り取られ 岩肌がえぐられ、その時期時期の
水の高さによってえぐり取られた幾筋もの水平のテラスを作っている。
今 垂直に切立った崖の底に激流が岩をえぐり 取りつけた人一人足が乗る程度の自然のテラス道を川
筋にそって歩いている。 これが 「へつり」の語源の実感か・・・



塔のへつり 崖の基部の遊歩道

水が崖をへつった後が自然の遊歩道になっている

見あげる幾筋もの林立する崖はまるで並立した「石灯籠」か「尖塔」のようで川筋を守っている。こ
れが 「塔のへつり」 崖の上からではわからぬ実感か・・・・・・。
何で この渓谷に「塔のへつり」という怪しげな名前をつけたのか 判りませんでした、川の流れの
際から垂直に林立する崖のさまを見て納得。
何事も やっぱり 自分で その場まで行かないとわからないですね・・・・

渓谷の両側に小さな温泉宿がたち並ぶ湯野上温泉の直ぐ近く「塔のへつり」は素晴らしい名勝でした。
ここから車で山を一つ越えれば 江戸時代にタイムスリップしたような下野街道「大内宿」。
ちょっと奥へ入れば祇園祭の残る奥会津の中心地 会津田島。そして古い家並や芸能の残る館岩村・
尾瀬の玄関口桜枝岐村へと続く自然いっぱい 日本の原風景の街道筋
春・夏・秋・冬 ふっと東武電車の特急に飛び乗って出かける僕の好きなコースです。
また 兵庫で育て 子供の頃から使っていた「へつる」と「へつり」。
感からするとやっぱり ルーツは同じ 思えてなりません。

のへつり」で

by M. Nakanishi